



令和7年度 静岡県立掛川特別支援学校 御前崎分校

## 第2回 学校運営協議会 記録

1 日 時 令和8年2月4日（水）午前10時から11時30分まで

2 会 場 静岡県立池新田高等学校 小会議室  
静岡県御前崎市池新田 2907-1

3 参加者

○学校運営協議委員

木下 裕義 様

水野 浩三 様

漢人 隆弥 様

谷 麻衣子 様

○学校職員

校 長 副校長 高等部主事 教務課長

4 内 容

(1)開会

(2)校長挨拶

年度末のお忙しく寒い中、お越しいただきましてありがとうございます。  
学校は、年度末のまとめの時期です。本日は、その取組の報告があるかと思えますが、御前崎分校はいろいろな活動を通して、地域の方や池新田高校への認知を高めることにつながる活動が広まっていると感じる一年でした。分校の生徒は、池新田高校の校長室の清掃もやっていますが、いつも丁寧にやってくれているとの話を聞きます。このような子どもたちの頑張りの評価を聞いています。地域とのつながりやかかわりを大事にしているので、そのかかわりを広げていく意味でも、今年度の取組を来年度につなげていきたいと思っています。本日は、さまざまな御意見をお願いします。

(3)協議

①令和7年度学校経営反省（副校長）

ア 専門性

「学習の個性化・指導の個別化による個別最適な学習に積極的に取り組んだ」と 答える教職員 100%

A55.6% B44.4% ⇒ 評価「A」

（年間指導計画（職業）を提示し）3年間の系統性、学習のつながりをもって進めている。このように丁寧にやっている学校は珍しいと自負している。特に「職業」は整っている。ここから生徒の目標に落とし込むときには、個々の生徒の目標に応じて変更を加えている。全体的にも、評価をしながら改善している。引き続き、実践をしながら改善を重ねていく。

「生徒の身に付けた知識や経験を社会で生かすことができるような授業や指導を実施した」と答える教職員 90%

A41.2% B52.9% C5.9% 評価⇒「B」

知的障害教育は、自立と社会参加を目指している。社会で生かしつつ、汎化し社会とつながっていることが大事だと考えている。作業班、学年集団で授業を検討することで生徒の目標や課題を教員で共有し、一枚岩になって指導を行っている。

「障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服する視点で ICT や教材を活用することができた」と答える教職員 90%

A44.4% B55.6% 評価 ⇒「B」

教育の現場にも生成AIが入ってくる。便利だが、人が考えることも大事にしたい。学校のなかの研修課と教務課で連携して取り組んできた。現在、活用の仕方、使い方を学年で検討しているところである。今後も研修を継続していく必要がある。分校は、ICTをかなり活用しているが、生徒にとって必要な活用の仕方を模索していく段階であると考えている。

## イ 安全・安心

「生徒の特性を理解し、学校生活の決まりを守って生活することができた」と答える生徒 90%以上

A 27.8% B72.2% 評価⇒「B」

特別支援教育の専門性にあたることころであり、生徒個々の特性や状況により、具体的に支援にあたっている。結果、生徒それぞれの心身の状態に応じた支援ができた。近隣の中学校から入学してくる生徒には、コミュニケーションなどにメンタルの課題をもっている生徒がいる。それぞれの生徒の心身の変化に着目して、支援をしている。その一つとして健康チェック表があり、心のバロメーターを可視化して取り組んでいる。まだ活用の仕方に課題のある生徒もいる。

「相手を尊重し、学校生活の決まりを守って生活することができた」と答える生徒 90%以上(いじめゼロ 生徒会活動)

A65.8% B31.6% C2.6% 評価⇒C評価はあるが、数値的に多いので「A」

ここは生徒の評価になっており、7月に生活アンケートとして、いじめやセクハラアンケートを行っている。同じく7月にOUD（御前崎分校版ユニバーサルデザイン）の授業を行い、人間関係について考える時間を設けている。生活アンケートの回答の中には、社会経験の少なさ、認知の特性、コミュニケーション面での受け取り方の特性があるため、悪口を言われたと誤って思ってしまう事例があった。このような場合は個別面談をして解決をしている。生活アンケートは、教師が質問を読み上げて生徒が記述したり答えたりしながら、教師が誘導することのないように留意している。

「緊急時の自己の役割を認識し、適切な行動ができる」と答える教職員 100%以上  
A50% B50% 評価⇒「B」

(危機管理マニュアルを提示し)このように厚く、すべてを覚えるのは困難なので、避難訓練の際に、必要な部分を周知して動けるようにしている。いざというときには、個々の判断が必要なので、危機意識を高めている。今年度は今まで使っていなかった非常階段を使った避難方法や緊急地震速報を2階フロアや3階フロアへ口頭伝達するシェイクアウト訓練なども取り入れてみた。

「想定される危険を回避するために「家庭でも話し合っている」と答える生徒・保護者 80%以上

生徒)A50% B50% 評価⇒「B」 保護者)A32% B54% C14% ⇒「C」

家庭で話し合っているかどうかという視点で、昨年度からの課題である。自主通学している生徒が多く、災害が起きたときには教員が助けることができないので、家庭で話し合ってもらいたいということで、今年度力を入れた。学校からは、防災日よりや授業で家庭と連携できるような話題を提供した。

※生徒はCが 42.1% 保護者 14%であった。生徒の評価をとってC評価

※登校中、緑町バス停から斜め横断での事故が1件あった。その後の対応として、保護者が3日間見守って安全確認した。

#### ウ 連携

「保護者との指導内容の共有、関係機関との情報交換、必要に応じた支援会議など必要に応じた学部との連携を積極的に行った」と答える教職員 100%

A72.2% B27.8% 評価⇒「A」

進路担当、コーディネーター、学年が連携した、生徒の特性によるレアなケースがあった。何回も検討を重ね、進路決定に至っている。このように繊細なケースを扱っている。

「販売会や地域作業を生徒の夢の実現に向けた目標を達成することにつなげることができた」と答える教職員 100%夢の実現

A47.1% B52.9% 評価⇒「B」

多くの学校で、キャリアパスポートの取組を行っているが、本校もマイデータや自分の長所、短所など、自分のことを自分の言葉で表し、どのように生活を送るかの視点で、家庭で行うこと、学校で行うことを考え、自分の人生を設計する取組を行っている。また、このシートを目で見て、確認できるところに常に掲示し、目にできるように支援している。好きなこと、苦手なことを自分で分かることが次のステージにつながると考えている。また、生徒がなりたい自分に近づいていると考えている。

今後は、3年生の3年間の取組を他学年にも広げ、学校全体で深めていこうと考えている。

「生徒及び生徒の学習活動、作業製品などを通して池新田高校や地域の方が「分校及び生徒の理解につながった」と答える教職員・外部評価 100%

A83.3% B16.7% 評価 ⇒「A」

地域や社会に「開かれた教育課程」を貫き、地域とのつながりを大切にしている。事前にやること、目的、マナー、ルールを伝えることで、生徒が主体的に動くようにしている。今取り組んでいる販売会単元も生徒が動けるよう支援している。池高にもアンケートをとった。結果から、分校への理解が進んでいることが見て取れた。

エ チーム

「担当業務を通じて、満足感や達成感、有用感を得ることができた」と答える教職員 100%

A44.4% B55.6% 評価 ⇒「B」

昨今、働き方改革や業務改善と言われているなかで、働き甲斐のある職場になることを目指している。分校職員には、チームとグループの違いを伝え、チームで仕事をしよう！と、伝えている。校内で、必要な話し合いはできている。

<質疑応答>

木下委員：昨年に比べ評価が上がっている。年間指導計画や保護者、関係機関との連携ができている。校内だけでなく外との連携もできているところを評価している。

AIのみならず、ICTを業務改善として目を向けたらどうかと思っている。生徒と接する以外の業務の中で便利に活用できないか。

高等部主事：データで文書を確実に保管している。紙面を減らし、データを活用している。

副校長：企業ではどうか。

木下委員：議事録もAIを使用している。録音して、AIで起こしている。内容が外れているところもあるが主旨が分かればよい。このようなところで改善している。

水野委員：(JAは)AIはまだであるが、議事録はソフトを使っている。方言は拾えないが便利である。本人の感想などを書き表した文章では、AIを使用したことは分かる。

副校長：AIの使い方は、一歩間違えると悪用もできてしまったり、内容をうのみにしてしまったりする。しかし、上手に使いえば作業効率は上がる。

谷委員：PCはよいと思うが、漢字を忘れてしまうことがあるので、手書きにしている。PCだと気持ちがこもらないので、手紙で相手に気持ちを伝えたいと思い、書いている。AIも便利だと思うが、学習として、漢字を書けなくなることがないように考えている。

副校長：基礎基本を大事にしながら便利に進めていきたい。生徒への使い方は気を付けていきたい。

水野委員：AI の話題が上がっているが、情報漏洩について、学校としてどのように対応しているか。また、目的を共有とあるが、どのように共有しているか。共有する上で気を付けているところを教えてください。

高等部主事：授業検討の際、グルーピングをするときには、主任者会で話し合っている。そのとき、授業の目標を達成するために、グループ（編成の）意義を考えることで目的に近づけるようにしている。

副校長：内容の解釈は大事。対話は互いの話を理解することであるので、相手の意見を聞こうとする態度が大事なのかなと思う。論点がずれないように、焦点化した話し合いの中で共有が進むようにしている。  
JAではどうしているか。

水野委員：共有する方法では、悩んでいる。伝え方など、周知徹底できないところがある。

副校長：受け取り方は、経験値や年齢、男女により、さまざまである。

谷委員：この一年、感じていることは、保護者意識についてである。保護者の中には自分の子供に対して、学校まかせのところがある。このこともあり、12月に保護者研修会を行って、講師から「保護者として、今、必要なこと」を話してもらった。外部の方から言ってもらうことは大事だと考えた。在学中に、関係機関とつなげられるところはつなげていきたい。卒業してから、どうしようと、困り感がでそうなところを（在学中に）明確にした方がよいと考えている。研修会後の保護者アンケートからも、「聞けて良かった。今知るべきこと知り、連携していく必要がある。」など、肯定的な意見が多くあった。今後も、学校と保護者が共有し合い、小さなことからでも、気付いたことを取り組んでいけるとよいと思っている。

副校長：研修会は高評価を得た。研修会后、保護者の意識が高まったと感じている。教員だけでは、育てられない面もあるので、保護者の協力は大切である。

木下委員：「地域作業の目的の共有は継続したい」とあるが、共有をどうしていくか実際どうすればよいか。

副校長：当たり前のように位置付けられているが、やることがゴールにならないように、目的は、地域共生社会で自分らしく生活していくことである。職員が入れ替わると、活動を行うことが主になり、目的が薄れてしまう。その目的を地域作業、販売会をとおして、何を育てるかが大事というところを共有した。形骸化を防ぐために、進路課を中心となり進めていった。

高等部主事：地域作業先が7カ所あり、生徒を振り分けているが、生徒の目標に応じて地域作業の作業場所を考えるようにした。学年の教員も生徒の実態や指導のポイントを考えることができるようになった。

副校長：学校の方向性について、全職員に浸透するのは時間が掛かるし、難しい点もある。しかし、理念を伝えることが大事だと考えている。

水野委員：同じ方向を向くことが一番であるが、そこを浸透させるのは難しい。  
農福連携 ⇒分校で取り組んでいることはあるか。

高等部主事：農園芸班で積極的に活動をしている。JAから講師を迎えている。そこから地域の情報（作物の状況、害虫被害など）を得ている。

水野委員：人手不足であるので、機会があれば農福連携をしていきたい。

校長：スズキサポートは、浜松で農業も行っている。昨日の贈呈式でも、仕事の様子を紹介してくれた。

水野委員：仕事内容とマッチングして必要であれば、紹介しているので、機会があったら是非利用してほしい。

副校長：農園芸で、寒さ、暑さに強い生徒がいるので、向いているかもしれない。作物を育て、収穫し、販売する楽しさや生きがいを見出せるかもしれない

#### <評価>

ア 専門性	学習の個性化・・・	A
	生徒の身に付けた・・・	B
	障害による・・・	B
イ 安全安心	生徒の特性・・・	B
	相手を尊重し・・・	A
	緊急時の役割・・・	B
	想定される・・・	B
ウ 連携	保護者との・・・	A
	販売会や・・・	B
	生徒及び・・・	A
エ チーム		B

#### (4)校内コンプライアンス委員会

##### ①令和7年度不祥事根絶取組反省（副校長）

- ・配付資料あり
- ・5月交通安全 6月わいせつ ⇒ 他に振り替えた  
⇒ 県からコンプラ情報が来る。そこに職員が勉強できるように、資料が付いているので、それを管理職から発信している。
- ・体罰  
⇒ 生徒アンケートからは出なかった。閲覧資料  
アンケートについて、心配のある生徒には、個別に聞き取りをしているが、体罰はなかったので割愛した。
- ・自己チェックシート  
⇒ 7月12月2月に各自チェックして管理職に送るようにしている。  
項目「26」「27」の黙認について、「不適切な行動を見たり聞いたりしている」が「ある」と回答した場合は、管理職が面談している。  
また、名前の挙がった職員も面談している。小さな集団なので、ちょっとした言葉がきつく感じるかどうかは、麻痺しているところがある。その面も考慮して、管理職がしっかり見ていきたい。

② 令和7年度人権教育取組反省（高等部主事）

- ・人権教育 道徳の時間に人権教育を行っている。4月に学部全体で決まりについてガイダンスを行った。学部全体で行った後、学年で押さえをしている。12月、再度行い、決まりの意義を話し合い、よりよく生活するためにどうしたらよいかを話し合った。7月に心のユニバーサルデザインについて外部講師を県から招聘した。人とのかかわりの中で相手を思う心を育てることを目的に授業を行った。講話後、生徒の気持ちを引き出す時間を設け、それをOUD（御前崎分校版ユニバーサルデザイン）にまとめた。
- ・生徒からは、困っていたら声を掛けるなど、子どもの目線での意見が多く出てきた。生徒から様々な考えが出てきた。廊下に掲示している。
- ・7月には教員の人権感覚を高め、指導方法を考えあう研修を行った。人権担当が所管事項を伝えた後、グループワークを行った。日々気を付けていることなどを話し合った。生徒の名前を呼ぶときにはさん付け、受容する、分かる授業づくり、職員間の連携などの考えを共有できた。

③ 質疑応答並びに改善案等

木下委員：（企業で行っていること）事例を用いたディスカッションでは旬なことをテーマにしている。例：取引先や社員間でのかかわり方

水野委員：昔は、ハラスメントがあったが、最近は厳しくなったので、なくなってきている。上からのハラスメントもあるが、下からもある。JAでは、直接人事担当へあげていくシステムをとっている。

木下委員：法律で定めているので、不利益を与えないことが大前提である。

校 長：教員も県への相談窓口がある。相談する窓口を周知はしているが、教員全員が知っているかは分からない。心の相談窓口を利用している教員もいる。

水野委員：昔は根性論だったが、そういう時代ではない。企業にもメンタルに不調のある人はいる。

木下委員：受け止め方により、強弱は人により違う。受け止めた方がそう感じればハラスメントになる。

水野委員：価値観の違いを埋めるためには共有が大事。

谷 委員：自分の職場で心がけていることとして、心の悩みがあると声のトーンが下がるので、今日は、何かあるのかなと考え、少し悩みを聞こうとしている。少しでも発散できればよいと思っている。誰も聞いてあげずに、爆発してしまうと大変なので、誰か見ている人がいるとよい。愚痴を聞く程度でよいので。話の内容によっては、管理職に報告するようにしている。

副 校 長：保護者同士でも悩んでいる人を見て、心配してくれている。それがありがたい。学校では大変助かっている。今後も、セクハラ、パワハラ、いじめがないように進めていきたい

(5) 1年産業現場等における実習報告会 参観

(6) 閉会 (校長挨拶)

本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

質問や御意見をいただき、学校、企業、保護者と、場所は違うけれども課題が共通しているところ、学校が取り組むべきところを教えていただいた。ありがとうございます。分校は、入学者選考、合格発表も終わり、次年度に向けて進んでいます。

本校にも御前崎分校を受検している生徒がおり、高等部生活に期待をもっている。今後もより地域に根ざした、活発な分校をめざすので御指導ください。